

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語



この度、世界遺産の一つとして名高いフランスのモン・サン=ミッシェル見学ツアーに参加しました。

当施設は、フランス西海岸サン・マロ湾上に浮かぶ小島で、その天辺に大天使ミカエルを冠する修道院がそびえています。満潮時には小島となり、干潮時には陸と繋がること、そしてその外観の美しさから、「西洋の奇跡」とも称されています。

伝えられるところによれば、西暦708年、オベール大司教が、夢の中で大天使ミカエルから「この岩山に聖堂を建てよ！」と告げられ、悪魔のいたずらかと2度も無視していたところ、3度目の出現で、脳天に稲妻が走り、目覚めると脳天に穴があって本物と確信し建設されたということです。

フランス王国の王位継承問題と、イングランド王家がフランスに有する領土等をめぐり、両者の間で戦われた「百年戦争」（1337～1453年）では、島全体が要塞の役割を果たしたようです。この百年戦争で、フランスを勝利へと導いたオルレアン少女ジャンヌ・ダルクへお告げをしたのも、大天使ミカエルであるということです。

百年戦争の結果、両国の国境も定まり、国家としての意識もつくられたということで、これらの流れは、特別な理由があると推測されますが、結果としてフランスがイギリスに支配されないように仕向けたものと思われまふ。

大天使ミカエルについては、聖母出現として知られるポルトガルのファティマにおいて、1917年10月13日に、7万人余りの前で太陽が乱舞する事件が起きましたが、これにも関わっていたと言われています。これら奇跡の現象は、現実のことであり、背後でスペースピープルが関わるスペースプログラムの一環として行われているのではないかと考えています。

“言葉に注目”

< 異星人たちは宇宙船の内部にその装置を備えていたからです。 >

by G・アダムスキー著 『肉体を超えて大宇宙と一体化する方法』（中央アート出版社）

この言葉は、サンフランシスコにおける講演の質疑応答部分にあるものです。

この装置というのは、空気をマイナスイオン化するもので、家庭用のエアコンデショナーが、まもなく販売させると伝えています。しかし、その研究所にいた科学者たちはその効果に気づいていないので、アダムスキーが説明をすると、それを確かめる方法を思いつき、処置を行ったタバコをアダムスキーに吸わせたところ明らかな違いがあったということです。プラスイオン処理のタバコは、嫌なフィーリングとなって腹立たしい気分となり、マイナスイオンでは幸せな楽天的気分になったということです。この装置は、子供の風邪も直してしまったと書いてあります。この開発に、アダムスキーは関わっていたということのようです。

「生命の科学」学習のポイントPart76

今回は、レクチャー7 『宇宙的記憶』の10回目、「意識と一体化すれば病気も消滅する」です。

初めに、前回の「花に呼びかけ」で、うまくゆかないからといって失望してはいけないと説明します。むしろ、決心を益々高めるように諭しています。そして、古い習慣に縛られている一般人に対して、「古い習慣というものは、あなたがそれをよき習慣のなかに吸収してしまうまでは、いつまでもあなたの行手につきまとうことを忘れないようにしてください。」と語っています。古い習慣を、よき習慣に切り替えて行かなければならないということです。

これらに大切なことは、いかなる時も「あなたの心が万物の背後にある宇宙の生命と英知に気づいているかどうか」を確認することであるとしています。

万物は、宇宙の生命や英知と関係して自分の目的を果たしているのだから、人間も「意識眼」をもって確認して欲しいということです。このような生き方を自分の生活の一部として、自分の精神生活を修正するならば、「あなたがこれまでにかかっていたいかなる種類の病気も消滅します」と語っています。

この「意識眼」とは、意識を感じながら見ることで、宇宙の意識の存在を心が公平公正に理解できるならば、その状態で万物の背後等を感じることで近づけるものと思います。

ここでは、心の理解のことなので、次に、心について語っています。「心というものを創造したのは心自体ではなく、宇宙の意識がその創造主で・・・心がそれと混和するならば、創造主が作り出した物なら混和者が修正することができ、それを完全に働かせることが可能・・・」と、記憶するよう語っています。あなたの心が、意識と混和することを混和者と言っていて、それが何でも修正可能であるとして、老化現象さえもなくすことができると語っています。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編76＞

“大功を成す者は衆に謀（はか）らず”

大事を成し遂げるような人物は、大衆の意見を聞いたりせず、自分の判断によって事を行うということです。一般的には、賛同を得ない手法ですが、このような人が時にいるように必要な役割なのでしょう。この謀らずという字も、諮るという字でないところがみそです。



Q: 「生命の科学」は、なぜ広まらない? ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A: 確かに、真実の書であるなら広まりそうなものです。考えられるのは、もともと多数者の理解を得られるような書ではないということ。また、現在の産業界や政界など、社会に影響を与えられる人々の理解が少ないことも、その一因ではないかと思われます。

書物紹介

『対米従属』という宿痾（しゅくあ） 鳩山由紀夫・孫崎亨・植草一秀 著 飛鳥新書

著者の三人は、政治や経済、あるいは外交についての専門家であり、現在の状況を批判的に見ていると言う人々もいますが、極めて客観的に分析し正論を言っていると思います。北方四島、竹島、尖閣諸島、TPP参加、原発推進、沖縄基地固定化など、多面にわたり対話しています。それぞれ、現体制に対して鋭い意見を言うことから、かなりの圧力を受けているということです。鳩山さんも、それで退陣しましたが、やはり真の平和主義者であると感じました。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように!

☆東京開催☆ 2019年7月6日(土)、9月28日(土)11月9日(土)、2020年1月11日(土)、3月15日(日)は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

公私ともに多忙な日々でしたが、そろそろ落ち着きそうです。本通信も、ほぼ予定通り編集することができました。

URL: <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第76号>

発行日 令和元年 7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

日本の小惑星探査機「はやぶさ2」が、小惑星「リュウグウ」(大きさ約900m)に到達し、2回の着陸に成功。2回目の着陸では、地表下のサンプルを採取して2020年11月から12月にかけて帰還する予定とのこと。

「リュウグウ」は、前回探査をした「イトカワ」と比べ、宇宙創造期に近い古い鉱物でできていて、宇宙創造の解明につながると期待されています。また、鉱物の中に有機物や水が存在すると見られています。

アダムスキーによれば、太陽系内に小惑星帯が3か所あり、火星と木星の間のほか海王星と冥王星の間（エッジワース・カイパーベルト）、そして、X、Y、Zとする12番目の惑星の外側（オールドの雲）にあるとしました。現在、冥王星については、準惑星として惑星から外されていますが、アダムスキーは惑星として認めていました。また、今日では、小惑星帯様のものを先のカッコ内に記したような名称で知られています。

この小惑星帯は、惑星が崩壊したものではなく、惑星を生み出す「心卵器」、または「子宮」としての役割があると言っていました。

事実、小惑星帯から抜け出した「リュウグウ」には、水が含まれていると考えられ、宇宙には水がありふれた存在になろうとしています。宇宙の最も多い元素は水素で全体の約55%、2番目がヘリウム、3番目に多いのは酸素となっていますので、水素と酸素の結合である水の存在は、当然のことだと考えられるのです。

このような中、なぜ、この太陽系内の惑星の数が12個とならないのか、地球以外の惑星等で生命の存在が確認されないのかは大いに疑問です。何か、一般には知り得ない秘密があると考えないわけにはいきません。

ともあれ、日本の純粋に科学的な「知りたい」という欲求に基づく宇宙探査が、多くの成果を上げることが期待したいと思います。

「言葉に注目」

< 別の惑星の数学では一プラス一は三となるのだ。 >

by G・アダムスキー著『UFOの真相』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーが転生の記憶について、潜在意識が保つのか顕在意識が保つのか聞かれて答えた一コマです。彼は、潜在意識を自我（真の自己）であるとして記憶を保つもので、それを潜在意識の心が引き出し、顕在意識により知覚すると言っているようです。

そこで数字を例に、次のように説明したものです。「われわれの数学では一プラス一は二となる。ところが別の惑星の数学では一プラス一は三となるのだ」。その説明で、「一人の男と一人の女が結合すれば、二人は一人の子供を持つ」。男を陽で女を陰とすると、その両親と子供で三になるということです。ここで、三位一体の話となって、潜在意識と顕在意識と心で三位一体であると説明しています。以上の説明は、慎重に考えないと理解が難しいところもあります。

「生命の科学」学習のポイントPart77

今回は、レクチャー7 『宇宙的記憶』の「土星旅行における船体との一体化の体験」です。

アダムスキーは、この前段で、一機の円盤から母船へ直行した際、その旅行の目的からそれほど、彼を夢中にさせるものが沢山あったと書いています。奇妙な装置類の総てに興味を持ったということですが、これは心の作用であることに気づいて、各感覚器官の機能を統合して旅行本来の目的を思い出したと書いています。アダムスキーであっても、この当時は、そのような状態だったのだと、推測することができます。

「このとき私の感情は心の好奇心と旅行の宇宙的な目的のあいだにはさまれていました。」そして、「私は意識という教師である私の真自我へ私自身をまかせる必要があったわけです。」と書いています。また、「これは容易なことではありませんでした。」とも書いています。

しかし、「これを行うことに成功すると私の心は無限の視界へ導く巨大なドアが開かれていたことに気づきました。そして私は自分の心がそれまで決して聞いたことのない物事の十分な理解を体験しました。」ということです。具体的には、無限という感じであり、母船の船体や乗員を含めて、自分の一部であると感じたということです。

つまり、好奇心そのものは重要なときもありますが、心の反応であり見境がなく、本来の目的を受け入れられなかったところ、心を統合して意識的に対応することで、特別な経験をする事ができたということです。

船体との一体感は、地球上での船の船長と沈没する船に対応させて、同じようなこととして説明していますが、実際は、原子レベルで船体と自分との一体感を感じていたということですから、類似なものとも言えますが次元がやや違うとも言えるでしょう。

宇宙に“生きる”

<名言格言編77>

“腹八分目に医者要らず”

食欲にまかせて満腹するまで食べず、八分目ほどでやめておくことが、腹に負担がかからず、健康のために良いという教えです。食べられる時に食べておこうとする時代では、困難なことですが、時代が変わった今日、どんなことも、この程度にすることが良い方法かも知れません。



Q：宇宙の意識と宇宙の法則はどう違う？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：宇宙の意識は、この宇宙の総て（物心両面）に存在している宇宙より大きな存在です。宇宙の法則は、宇宙という物質的で有限な世界に存する法則を意味しています。分かりやすく言うと基本は結果の法則です。宇宙の意識は創造主で、宇宙の法則はそこから生まれたものです。

書物紹介

『救世主イエスと悪のキリスト最後の戦い』アントニオ・ノセリ著（株）コスミック出版

本書は、「聖書」、「死海文書」、「偽典・外典」の研究者だった、故アントニオ・コレリの研究を引き継いだ著者が、師のかつての著書を骨子に資料等を加味して書かれたものです。イエスは双子であったなど奇抜であると同時に、イエスを宇宙から派遣された宇宙人であるとするなど、聖書関係者からはにらまれ、かつての様に本書も発禁となるかも知れません。しかし、初めて知る内容も多く、妙に真実が含まれていて色々と参考となる一冊でした。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2019年9月28日（土）、11月9日（土）、2020年1月11日（土）、3月15日（日）、5月6日（祝・水）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

今回は、やや余裕で書き終わりました。気にしているのは、皆様にとって、意義ある内容を含んでいるのかということです。さて、どうか？

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第77号>

発行日 令和元年 9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

「生命の科学」を学習しようとする人々の中には、いわゆる超能力に憧れ、例えば、透視能力や人体治癒能力、あるいは念力などの力を身につけたいと願う人々がいます。かつて、日本におけるアダムスキー支持団体においても、そのことに関心を示していた時期もありました。例えば、アダムスキーの著書である「テレパシー」を「超能力開発法」として発行してもいます。

しかし、「生命の科学」を読み、実践に努力を傾けても、先のような能力は開かない、あるいは、実感がないという人がほとんどだと思われます。それは指導が悪いのか、読解力がないのか、何らかの原因があると考えてでしょう。

アダムスキーは、「生命の科学」において、宇宙の意識と心の関係、四官による心のあり方、原因と結果の捉え方、自然界の観察眼、自己は何により存在するのかなど、心が理解して意識の指導に従うことを教えています。これは、全人類が本来の生き方に立ち返ることを促すもので、この理解のもとに平和が実現できることを伝えています。

この人間の内的変化は、意識と心との対話、つまり、テレパシーを強化するものであり、その結果、各人の資質により花との対話や自然界との一体感など、様々な能力が発現するようになるものです。ただし、人間界の中で、精神的に負担になるような業務に従事している場合は、それらはきわめて限定的であるはずです。

いずれにせよ、「生命の科学」の学習では、超能力は一つの結果であり、その能力のみを目指すのであれば、それ専用の訓練が必要であると思ひます。

アダムスキーは、大超能力者と言われてはいますが、それは、子供の頃にチベットで修業したことが影響していたと思われますが、それでも、安定して能力が発揮できたのは最晩年であったと見ています。

「生命の科学」の学習は、超能力が期待できるものの目標ではなく、宇宙の意識との対話を重視しながら、真の宇宙の住人として生きるための処方箋であると思ひます。

“言葉に注目”

< 宇宙的な生命界において彼らは幼稚です。 >

by G・アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーが金星の母船に乗船し、指導者から話された言葉の一節です。ここで彼らというのは地球人のことで、幼稚であると言っています。その前段に、地球や地球人に悪いものは何もないと語り、「ただし理解力の欠乏のために“唯一の最高者”の」というくだりが入ります。そして、創造主の法則を地球人は語るだけで、彼らは実践していると言っています。

つまり、地球人は、“宇宙の意識”に対する理解力が欠乏しているために、幼稚なのだということです。幼稚というからには、初期の段階にいただけであって、正しい路線の途上にいることとなります。無知ならばやむを得ないということもあるでしょうが、そのことから、地球人という本質が、悪いわけではないと言っているのです。

「生命の科学」学習のポイントPart78

今回は、レクチャー8『宇宙の一体性』の1回目、「心は意識から教わることができる」です。前回到続いて、宇宙旅行の話です。帰りにも、船内の各装置類に興味を持ったというのです。しかし、心は忍耐強くなっていて、好奇心ではなく知識を求める欲求に満ちたと言っています。

そのような気分していると、各装置の目的に気づき、自分が各部分の一部との感じが起こり、自分の目的が他との協力にあるのだと感じたということです。これは鮮烈な印象だったようですが、うまく言葉で説明できないということです。

「これは私の宇宙旅行で記憶している体験のほんの一部にすぎません。船内にあったすべての物や人々との交わりもけっして忘れることのできない一体感に満ちていました。」と書いています。そして、「私の肉体の意識的実体である各分子は船体の意識的な分子と一体化していた・・・。」と言っています。船体の分子と肉体の分子は形態的に異なり、目的も違うけれど、因である意識は共通なので、それが出来ると説明します。そして、他人の靴を履いて、その持ち主の気持ちが分かるように、万物に対してそれがやれると言っています。しかし、これをやるには、「心が意識から教わることに積極的になる必要があります。」ということです。基本的に、この部分は大切なところとなります。

次に、万物が、全宇宙の完全な表現を求めて一体化されていると説明し、「このことを認めるのは初めは容易でないかもしれません。」と書いています。これは、人間が心を有するからで、しかし、生命体は、共通の意識を持っているので、人間がこの点を認めれば、人間の心と意識との混合が行われると説明しています。まずは、心が、全宇宙に通じる偉大な意識の存在を認めることから始まるものだと思います。

宇宙に“生きる”

<名言格言編78>

“手八丁口八丁（てはっちょうくちはっちょう）”

行うことや話すことが、大変達人なことです。八丁というのは、巧みという意味です。通常は、行うことはできても、話下手であったり、話すことはうまいのに実践が伴わないなど、どちらも揃っているのは少ないことから、両方できる人に対して言うようになった言葉です。



Q：UFO 推進原理は知られている？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：アダムスキーによれば、小国でさえ原理を発見していると言っています。アダムスキーがいただいた、ネガを基にバシル・バンデンバーグ氏は解読に成功しましたが拉致されました。そこで、真相を伝え解放されたようです。当局は、既に、推進原理を知っているのです。

書物紹介

『ハーバードの日本人論』 佐藤 智恵 著 中公新書ラクレ

本書は、ハーバード大学の著名な教授陣に、日本について、教授ごとにテーマを設けて質問を行い、回答していただいたものをまとめたものです。著者は、作家でコンサルタント。現在は、日本ユニシス株式会社社外取締役を行っています。構成は、講義形式になっていて、第1講義「日本人はなぜロボットを友だちだと思うのか」、第3講義「日本人はどこから来たのか」など、興味をそそるテーマが10講義あり、なかなか参考になることが多い書物でした。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2019年11月9日（土）、2020年1月11日（土）、3月15日（日）、5月6日（祝・水）、7月25日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

余裕のない編集でしたが、遅れることはありません。私は、この編集を通じて、自己の学習が継続できることを自覚しています。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第78号>

発行日 令和元年 11月10日

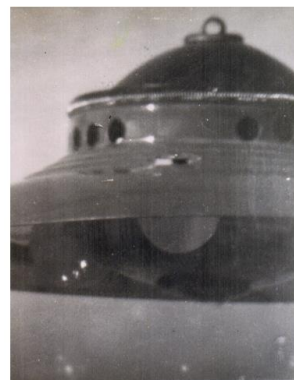
編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

ローマ・カトリックのフランシスコ教皇は、11月23日、38年ぶりに来日し、被爆地である長崎と広島にあいついで訪れ演説を行いました。

その主な内容は、「真の平和は非武装の平和以外にあり得ない」、「ここは核攻撃が人道にも環境にも破滅的な結末をもたらすことの証人である町だ」、「核兵器平和条約を含む国際法の原則にのっとり飽くことなく迅速に行動していく」、さらに日本を念頭において、核兵器は抑止力にならないと否定しました。

これらは総て正論であり、各国の宗教家や哲学者、教養人など、真実を伝えるべき人々が、どうして今まで、強調しなかったのかと、不思議に思わなくてはなりません。中には、このようなことに気づけない人もいられるでしょうが、知っていても言えない状況があるということです。そこが、大きな問題なのです。

今回の発言は、友好的なスペースピープルが肯定していることであり、聖母マリア出現においても伝えられていたことです。アダムスキーも、当然それを望んでいましたし、その教えを学ぶ私たちも、そのように考えるのが自然であり当然であると思います。

地球上では、こうした正論も、誰が発言するかによって影響力に大きく差がでるものです。私たちが言っても、多くの人でなければ、さほど力にならないでしょう。

しかし、今回、13億人もの信者の長であるフランシスコ教皇が発言したことで、信者はもちろんのこと、各国のリーダーたちが、良き行動に出てくれるのなら素晴らしいことです。ただ、残念なのは、アメリカ、ロシア、中国など大国のリーダーが、カトリックの信者でないことです。

正論を前に、各国のリーダーは、今後も教皇が言われたように“詭弁”を重ねるだけでしょうか。発言内容を“その通り”と理解し、知恵者が真実を語れない世界であることに気づき、“恥すべきことである”と思うならば、今後、大いに見込みがあるということでしょう。

“言葉に注目”

< 応用されない記憶は急速に背後へ消え去ってしまい >

by G・アダムスキー著『金星・土星探訪記』（中央アート出版社）

この前段に、成長と進歩の時間の長さは惑星や個人によって相違すると言っています。惑星によって異なるというのも興味あるところです。

そして、「人間が持ち運びのできるすべては、本人が学び取って応用した宇宙の法則の記憶だけです。」と書いています。これは、宇宙的に意味のあることしか記憶として継続しないと解釈されそうですが、そうではなく、「個人の記憶は必要ならば思い出すことができます。」と言っています。金星に転生したメリーさんとの会話を見ても、意味のないことも記憶していることがわかります。しかし、表題にある通り、応用されない記憶は消え去るということです。活用されない知識は、記憶として残らないということのようです。

「生命の科学」学習のポイントPart79

今回は、レクチャー8 『宇宙の一体性』の2回目、「創造主は老人ではない」です。

初めに、アダムスキーは、「神とはどのようなものか？」という質問を受けたと語り、神を説明するのは容易ではないと言っています。しかし、万物は、神の意識から生まれて、その中で生きているので、われわれは、神の創造物を研究することができるかと説明します。

このように考えると、結局のところ、宇宙に存在するすべては、神以外はあり得ないということになります。

次に、創造主は“老人”だと誤り伝えられていると語ります。そして、「なぜなら意識は常に生命という基礎にあって、われわれが探知し得るかぎりでは意識は初めも終わりも知らない・・・」と説明します。つまり、意識には、年齢というものがないということです。

続いて、老化現象を説明するのに自然の法則から説明しています。そこには、二つの面があり、一つは、生み出された物体には、常に老化現象が認められるということです。確かに、物体（動植物を含め）には、すべて新しい物から古くなるという老化現象が存在しています。

一方で、自然をよく観察すると、老化したものは、消え去り新しいものに入れ替わっていることに気づきます。アダムスキーは、「しかし生命の法則または自然は基礎的な段階においていつも変わることはありません。そして・・・古い物のかわりに新しい物を置きかえながら、各個体は自然の進化につれてより精妙な質の表現を求めているのです。」と言っています。

総括すると、創造主は、すべてを生み出す存在で決して老化することはない。生み出された物体は老化が認められるが、永遠に続く意識の流れの一時的な表現であり、次の新たな生へバトンを渡し、この繰り返しで物体は進化していくということのようです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編79>

“親しき中にも礼儀あり”

たとえどんなに親密な交際をする間柄であっても、礼儀を失うことがあってはならないということです。親しくなって、遠慮をしなくなるようなことがあるかも知れませんが、礼儀を失ってしまうと、かえって不和のもとになるという戒めです。なかなか重要なところですよ。



Q：自己実現は重要？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：もちろん重要です。但し、問題は、“自己”が、エゴの自己なのか魂の自己なのか、区別ができないところです。自己を常に客観的に観察しないと、この違いに気づけないのです。一般的には、エゴのもとに努力をする人が多いように思います。この点は、注意が必要です。

書物紹介

『日本国紀の天皇論』 百田尚樹・有本 香 著 産経新聞出版

本書は、百田氏が著した「日本国紀」の天皇論について、二人の対談を書物にしたものです。かなり右寄りな人物として、敬遠する人もいるかも知れませんが、今年、元号が平成から令和に変わり、新天皇が即位されました。日本人であれば、天皇家とはどのような発祥なのか、どのような役割なのかを考えないわけにはいきません。それらの糸口として、いくつかの事例が語られ、現代の問題点を含め話されていて大変参考になりました。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2020年1月11日(土)、3月15日(日) この日は、意見交換会を開催予定、5月6日(水・祝)、7月25日(土)、9月21日(月・祝)は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

年末は、何かと多忙になります。しかし、上手くやりくりできたと思います。本紙が、意味ある内容となることを願います。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第79号>

発行日 令和2年 1月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

近世の日本を見ると、江戸時代では200年以上、海外との交易を統制する鎖国が行われていました。これは、海外からの思想や技術力に、本国が潰されてしまうと感じていたからです。

その後、多くの苦難の後、日本は開国し西洋諸国に追いつこうと科学的・文化的に大きく発展。第2次世界大戦を経て、奇跡と呼ばれるほどの経済発展と平和な思想を展開しましたが、ここ30年は、経済的に停滞している状況です。

世界を見渡せば、北欧諸国が経済的には良好のようですが、米国、ロシア、中国をはじめ、ヨーロッパにおいても、全体として経済が低迷し閉塞感が強いようです。戦争の後に世界が発展するように見えるものの、今の時代では、地球の破滅につながるでしょう。

この世界的な閉塞感は、色々な理由が考えられるわけですが、分類すると大きく2つ、社会システムに関わる問題（大きな技術革新が必要）と、人々の意識の問題であると考えています。

世界中に77億の人々がいて、月や火星へ探査機を送れるほどの科学力があるとするれば、その解決策は、地球的鎖国をやめて開国することであると考えます。かつての日本がそうであるように、世界の列強国は宇宙に存在する思想（価値観）と科学力に恐れていると思われます。その中には、現在の優位性が失われることへの不安を持つ勢力もあるでしょう。

しかし、今回においては、何としても地球が開国をしなければ、地球の未来はないものと思います。地球の開国とは、つまり、地球的価値観から宇宙的価値観への転換であり、物理的強制の時代から、自然的平和時代への幕開けとなるものでしょう。宇宙的価値観へ転換するのは、大きな代償を伴うと考えられますが、それは、言うまでもなく、地球的価値観や習慣にどっぷりと浸っているからです。これらは、いずれ、廃棄しなくてはならない事柄です。

人間が、宇宙において発展しながら生き続けようとするならば、決して、外れてはならないルールが、宇宙の法則であると思われます。その基本と実践の一端を教えるのは、「生命の科学」であり、これこそ宇宙的な指針になるものであると理解しなくてはなりません。

“言葉に注目”

<テレパシーを正しく身につける前に、まず“心”を充分に理解することが重要である>

by G・アダムスキー著『UFOの謎（中央アート出版社）

これは、本書の第12章“テレパシーを開発するには”と題するなかにあるものです。この文の後に、「というわけは、想念のすぐれた受信者になるためには、個性を完全に排除することができねばならないからだ。」と書いています。

ここで、個性という部分が重要ですが、続けて、「人間の心は、やって来るあらゆる印象がしみ込んでゆくスポンジ……。その心がいつも習慣的に自分の個人的興味に捕らわれているならば……。正確にメッセージを受信することは不可能である。」と書いています。そして、話し続ける状態から、聴く段階にならないと受信ができないとしています。エゴが強いと難しいと解釈できますが、このような心の訓練には、「生命の科学」が有用であると思われます。

今回は、レクチャー8 『宇宙の一体性』の3回目、「生活に大変化が生じてくる」です。

初めに、人間が作り出した差別や裁きは、創造の世界には存在しないと言っています。太陽は正しい者にも不正な者にもひとしく輝くわけです。そして、人間の心には多くの差があると書いています。実際には、容姿も含め、個々人多くの差があるわけです。しかし、これらすべてを含めて、宇宙を形成する必要な部分であると言っています。これらがなければ、宇宙は完全とはならないというわけです。

ここでは、創造物には差があることを認める必要があると思われます。それは、必要物なので、違いを批判の対象にすることは間違いであると解釈できます。

次に、人間と創造主との違いについて、「創造主は創造の目的を理解していて、そのなかに何らの失敗をも見出せませんが、一方心に振りまわされている人間は・・・生活を心に頼ってすごしているという点にあります。」と書いています。

このことから、人間は、創造物に過失があると思ってしまうと言います。そこから、誤りが展開していくようです。「しかし人間が意識と融合して全生命を生きるならば、創造の目的を知る・・・不快な状況を作りだしていた差別の習慣にもはや耽らなくなる・・・」としています。

「われわれが創造主の完全な表現たらんとするならば、これまで以上に自然を研究しなければなりません。」として、自然の一体性の法則を観察して、それを応用するよう勧めています。優れた人の教えを実行して自己の習慣にすれば、親しい人の習慣があなたの一部になるように似てきます。こうして、自然と一体化してくると、さらに心を意識の指導に従うよう仕向けよと説いています。こうすれば、生命の新鮮さが自分を通じて現れるということなのです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編80>

“ 媮天下（かかあでんか） ”

家庭の中で、夫よりも妻の方が力を持っていて、夫の頭が上まらないほど妻が威張っていることです。まあ、この方が、家庭はうまく行くとも言われ、そのように演じさせている夫もいるようです。しかし、愛情もなく、妻が、威張っているだけでは、長続きはしないでしょう。



Q：自己より他人は重要なのか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：そんなことはありません。自己を健康に保つことは本人の責任で、しかる後に、周囲に目を配ることで。他人を助けるような生き方は、人間にとって大変に重要です。周囲が必要とすることを知恵で理解し、支援することができれば、素晴らしい生き方につながると思います。

書物紹介

『ユダのいる風景』 荒井 献（ささぐ）著 (株)岩波書店

これは、イエス・キリストの12使徒の一人であった、イスカリオテのユダについて書かれたものです。本書では、ユダがイエスに対する唯一の裏切者ではなく、鶏が泣くまでに、3度イエスを知らないと言ったペトロも同罪であると見ます。そして、「裏切るユダは誰の内にも棲む」と言うのです。確かに、マタイ、ルカ、ヨハネの福音書では、ユダの裏切りが強調されているものの、マルコの福音書では、先のように解釈できるなど考えさせられる書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2020年3月15日(日)この日の意見交換会は延期します。5月6日(水・祝)、7月25日(土)、9月21日(月・祝)、11月23日(月・祝)は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

何とも災いが多いですね。人的なものや自然的なもの。正に、終末的な様相ですが、この時代、「生命の科学」を軸に生きたいものです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第80号>

発行日 令和2年 3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 (禁無断転載)